

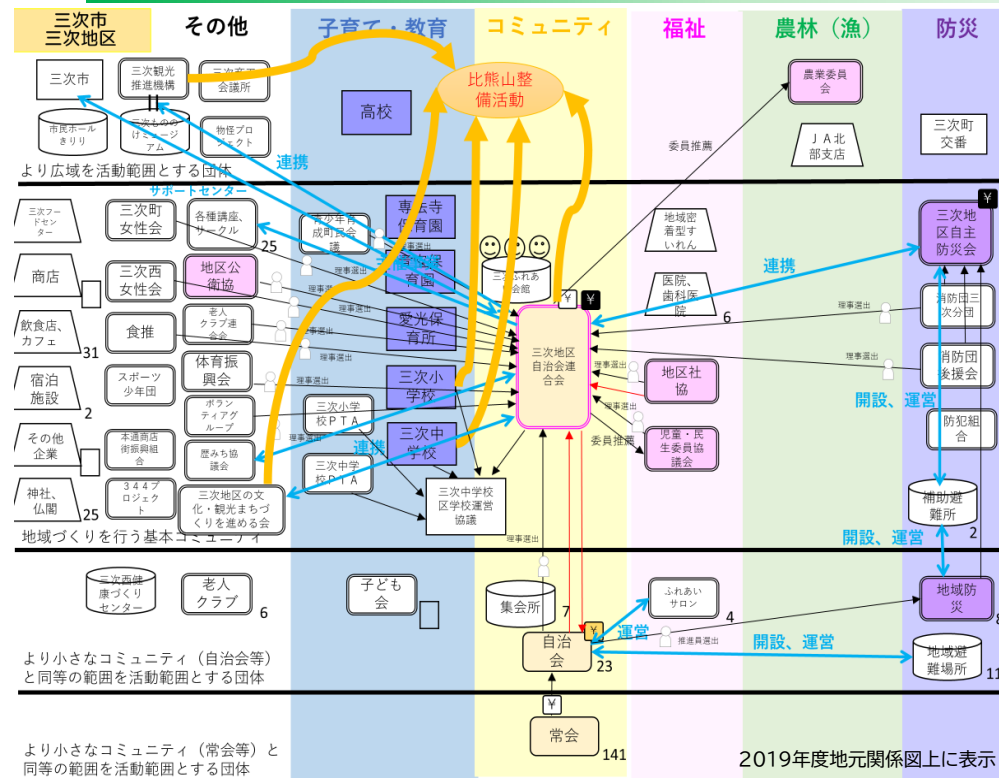
三次

比熊山整備活用事業(まちの賑わいづくり)

01 取り組み概要

実施主体	三次地区自治会連合会 三次地区の文化・観光まちづくりを進める会
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ● 稲生物怪録のふる里比熊山を活用し、三次もののけミュージアムを核としたまちのにぎわいづくり。 ● 三次町の成り立ちと密接な関係がある比熊山城址を活かし、町民が「ふるさと」を語り継ぐ取り組みをすすめる。 ● 子どもたちにとって山頂から眼下に広がる三次のまちの姿は深く記憶に刻まれ、「ふるさと」を大切に思う生きた教材となる。
内容	<p>三次もののけミュージアムを核としたまちの賑わいづくりを進めるため「三次地区の文化・観光まちづくりを進める会」が結成され、三次地区自治会連合会はこの活動に企画段階からかわり、役員は全員会員となりました。</p> <p>会では会員や町民市民に呼びかけての登山道の整備や案内看板の設置、「ひろしまの森づくり事業」を使っての間伐や山頂付近の眺望の確保、そして登ってきた人たちが休むための東屋の設置などを行っています。学校との連携では、小中学校での比熊山の歴史の学習や久しく途絶えていた小学校の比熊山への遠足、中学校のボランティア活動として比熊山清掃作業などを行っています。また自治連でも町民登山の実施や「比熊山登山&周辺MAP」を作成し、町民や子どもたちにより比熊山に愛着を持ち、三次のまちの歴史に誇りを持ってもらう取組を行っています。</p>

02 取り組み体制



03 特徴・工夫

- 「三次地区の文化・観光まちづくりを進める会」
 - 町民市民の自主的活動(市外の人も会員に)
 - 三次観光推進機構との連携
 - 三次地区自治会連合会がバックアップ
- コミュニティ・スクール
 - 小学校・中学校との連携強化
 - 子どもたちが動く(東屋天井画の作成、登山道清掃作業)
- 夢は大きく
 - 小さな子どもたちから高齢者まで集える比熊山公園化へ
 - 自分たちにできるところからコツコツと

04 成果と課題

成果

- 地域活動として継続した活動ができている
「まちづくりを進める会」の活動が、自治連の全面的なバックアップや三次観光推進機構との連携の中で、町民の自主的活動として6年間継続できていることは、今後の地域活動の励みになる。
- 学校との連携強化
地域活動に児童生徒がかかわり地域(の大人たち)が学校にかかわることにより、子どもたちは地域を知り地域は子どもたちをより身近な存在とを感じるようになった。

課題

- 参加者の拡大
活動の長期化に伴い参加者が高齢化してきており、今後比熊山を知らない若い世代をいかに活動に参加してもらうか、工夫が必要になってくる。
- 他のまちの賑わいづくり活動との連携
地区内の他の取組(尾関山、小路、旧三江線跡地)などとの連携を強化する必要がある。

05 取り組みの様子

会員による整備作業

2018年4月から年に2回程度登山道の清掃や倒木伐採の作業を行っています。広く町民市民の皆さんに呼びかけての作業も実施しました。

案内看板の設置

2019年3月、登山道の要所場所に案内看板を設置しました。これで迷わず山頂まで行けるようになりました。

東屋落成式

2022年5月、念願の東屋が完成し落成式を執り行いました。途中までしか車が入れないため会員が人力で資材を運び入れました。天井には三次小学校の児童の皆さんが妖怪の絵を描いてくれました。

三次小学校 比熊山学習

三次小学校や市立三次中学校で比熊山について学が授業に講師として参加しています。はじめの頃は比熊山がどこにあるかも知らない児童生徒が多く、びっくりしました。

三次小学校 3年生遠足

長年途絶えていた比熊山への遠足が復活しました。この子たちが大人になったとしても、この目見下ろした三次のまちを決して忘れることはないでしょう。

三次中学校 清掃作業

毎年春と秋、30人以上の市立三次中学校の生徒が登山道の清掃作業をしてくれます。生徒たちは元気に登山道を掃き降りてきます。

町民比熊山登山

登山道も整備され山頂からの眺望もよくなったので町民の皆さんに呼びかけ山に登りました。麓からゆっくり40~50分かけて登りました。山頂にトイレがあったら良いのですが。

比熊山 & 周辺マップ

子どもたちや町民の皆さんに配布し、より比熊山に愛着を持ち町の歴史を誇りとして伝えるため、マップを作成しました。観光で訪れる皆さんにも配布しています。

ぜひ一度、見にお出で下さい。